

とうきょうすくわくプログラム



調布市立金子保育園

調布市西つつじヶ丘4丁目16番地

1. 活動テーマ

〈テーマ〉

片栗粉遊び

〈テーマの設定理由〉

感触遊びは、子どもの成長に非常に大切な遊びの一つである。その理由として『五感の発達を促す』ということに注目をして保育をしている。6月の泥んこ遊びでは、子ども達の表情が、普段の遊びでは見られない“**開放的で幸福感溢れたものだった**”ことが印象的で、『五感の発達を促す』遊びであることを実感した。そのため、4歳児クラスで楽しめる感触遊びを考え、感触遊びを通して、子どもの五感を刺激し、遊びを通じた発見や気づきを深めていきたいと感じたため『片栗粉遊び』をテーマに設定した。

2. 活動した時期

令和7年7月・8月・9月の計3回

3. 活動のために準備した素材や道具

- | | | | |
|------|------------------|---------|--------------|
| 第1回目 | ・片栗粉 | ・水 | |
| | ・片栗粉を入れるトレー（人数分） | | |
| 第2回目 | ・片栗粉 | ・水 | ・食紅（赤、青、緑、黄） |
| | ・片栗粉を入れるトレー（人数分） | | |
| | ・水を入れるカップ（人数分） | | |
| 第3回目 | ・かつおの厚削り（見せる用） | ・片栗粉 | |
| | ・かつおだし（加熱済み） | ・鍋 | |
| | ・紙コップ90ml×40 | ・おたま1個 | |
| | ・IHヒーター1個 | ・スプーン1本 | |
| | ・紙コップ90ml×40 | ・おぼん2枚 | |

4. 探求活動の実践

第1回目

初めての『片栗粉遊び』。真っ白い粉に目を輝かせている子ども達の表情が印象的でした。活動を始める前に、「片栗粉は、お料理に使われているもの。例えば、「とろみ」のあるお料理。」と簡単に説明をしてから始めました。片栗粉そのものの感触を楽しんだ後、水を加え、感触の違いを学びました。

どんな感触かな…
ドキドキ…



さらさらしていた
片栗粉が
とろとろするー！
気持ちいいなあ

第2回目

2回目の『片栗粉遊び』。前回の活動を覚えていて、「さらさらしていて、楽しいよね」「とろとろしていて、気持ちいいよね」と色々な声があがりました。今回は、2回目なので、水の量の加減は一人ひとりに任せ、見た目や感触の変化、発見をより楽しめるような工夫をしました。水分量が多くなると、とろとろした感触はほとんど感じられなくなることや、手のひらで強く握ることでお団子のような塊になることに気が付きました。また、片栗粉に食紅を加えると、すぐに色の変化は感じられなくても、水を加えることで食紅の色が浮き出てくる面白さも学ぶことができました。今回の活動では、「お料理に使う片栗粉だよ」と、子ども達から、感触遊び以外の話題になり、子ども達の興味の広がりを感じました。



水はこれぐらいかな？
(真剣な表情で確認中…)



かたまった！
(感触の変化に気付いたよ！)



第3回目



2回目の片栗粉遊びの時に、「お料理に使う片栗粉だよね」「どんなお料理に使われるのだろう」と、感触遊び以外の話題になりました。そこから片栗粉を使った“とろみのあるお料理って何だろう”と、子ども達の関心の広がりを感じました。給食の献立を眺めたり、目の前の給食を眺めながら、「シチューに片栗粉が使われていそう」などと予想をしながら、食事の時間を楽しむようになりました。そこで、栄養士に相談し、だしの試飲の食育活動に『片栗粉』を取り入れ、子ども達の興味関心を更に広げ、学びを深める活動を計画しました。

保育園で作っている
みそ汁やすまし汁は、
『だし』をとって作って
いるよ。
『鰹節』を使うよ！
見たことあるかな？



おお！
色がついてい
る！



おいしい味が
喉を通ってあったかい。

実際に試飲してみて…

同じグループのお友だちと感じたことを伝え合っています。

- ・おいしい！
- ・体があったまるね。
- ・お魚の味がするね。
- ・飲んだことあるかも？



鰹節のうまみがあって
おいしいね！

Q. さっき試飲した「だし汁」に、『片栗粉』を入れるとどうなるかな？

みんなで考えてみました！

・水に溶けると思う。

・どろどろになると思う。

・甘くなる。

・粉の形が見えなくなると思う。 など

片栗粉の感触遊びの経験を思い出して、予想する姿が印象的でした。

お鍋を覗くと、「とろとろしてる！」と見た目の変化に気付ける子が多く、驚きました。



なんか
とろとろ
してるね！



お！
さっきと違う！



やっぱり
とろとろしてた！



もっと
おいしく感じる！

5. 振り返り〈振り返りによって得た保育者の気付き〉

- ・泥んこ遊びでの子どもたちの表情が印象的だったので、『感触遊び』をテーマにした。感触遊びの素材は、普段の保育で使うものではなかったが、子どもたちが身近に感じられる『食材』を用いたことで、より興味関心が高まったように感じた。
- ・子ども達の素直な反応を大切にするため、一人ひとりの発見に丁寧に耳を傾けつつも、見守ることを心掛けた。子どもの反応をじっくり待つことで、子どもの素直な反応を見ることができた。子ども達の気付きの声は、たくさん聞こえ、とても有意義な活動となった。
- ・探求心を高めるには、日頃の保育の中で見られる子ども達の様子や反応をより丁寧に見て、共感したり、必要な環境設定を考え、展開していくことが大切であると改めて感じた。